

私が写真展で伝えたいこと

特定非営利活動法人 世界ヒバクシャ展
写真家 代表 森下 一徹

家族に別れを告げることもできず、死の予感さえも与えられず、広島・長崎の原爆は瞬間的に人間を死に至らしめた。生き残った者は、距離と時間によって放射能の影響をそれぞれに受け、60年を過ぎた今でもその後遺症に苦しんでいる。

被爆者は、ひとりでも多くの被爆者が生きている間に、一日も早く核兵器を無くすことを、「原爆で亡くなった者への約束だ」として、今日も生き抜いている。私の写真集の中には15名の被爆者を紹介しているが、その内、生存しているのは2名だけになってしまった。亡くなられた被爆者はそれぞれの生き方で核兵器の廃絶を強く望んでいた。

私の撮った被爆者の姿は地球の財産だと思っている。核兵器の攻撃を受けた人間がいかに生きたかをじっくり見てほしい。被爆者が人間として生きる為に、失った「生」を一つひとつ取り戻していく姿は、強靱で美しく、人間の尊厳を見る思いがした。

広島・長崎以外に起きつつある核被害者の数は、広島・長崎の被爆者より遙かに多く、しかも増え続けている。真の平和を花や木や草の美しい地球の隅々まで浸透させるにはどうすればよいのか。

20世紀に生き活躍した我々の力を結集し、21世紀の早い時期に核兵器の廃絶を完全なものにするべく、20世紀に活躍した文化人の力を発揮する事ができれば、核兵器廃絶のために強靱に生き抜いた被爆者よりも大きな力になると思うのです。

NPO 法人世界ヒバクシャ展は、世界の核被害に遭った人々の写真を、世界中の人々に見ていただき「核」とは何かを考えてもらいたい。

20世紀に地球の多くの人たちに感動を与えた人たちの力で核兵器の無い平和な世界を作り出していきたい。

核兵器廃絶を目指して

森下一徹